

(第三種郵便物認可)

# 金融リテラシーの向上へ

## 損保協会、生保文化センター、金融庁などが主催

### 家計管理や生活設計でイベント開く

損保協会や生命保険文化センター、金融庁などが主催するイベント「そこが知りたい！ 今後の生活設計」が9月3日、東京・新宿区の東京都消費生活総合センターで開かれた。

イベントでは、一般消費者に金融リテラシー(知識・判断力)の向上を図ってもらうことを目的に、家計管理や生活設計に関する基調講演やセ

ミナーを開催。基調講演では、東京都金融広報アドバイザーでファイナンシャルプランナーの豊田眞弓氏が「人生のデザイン、マネープランのツボ」をテーマに、セミナーでは、損保協会生活サービス部啓発・教育グループシニアマネージャーの竹井直樹氏と生保文化センター生活情報室主任の齊藤数弘氏が「知ってほしい保険の知識」をテーマにそれぞれ講演した。

一般家庭の生涯収支の流れについて説明した豊田氏は、晩婚や晩産などにより、主たる支出項目である教育費や住居費、老後資金の準備期間が重なってしまっているという指摘。そのついでに老後に必要な金額を試算し、そうならないためにも早くから備えをしておくことが必要だと強調した。一例として、30歳代と



齊藤氏



竹井氏



豊田氏

きから月の支出額を1万5000円減らすだけで、老後も貯蓄額が黒字を保てるようになるという話を述べた。

また、教育資金を親子で分担することも一つの考え方だとし、例えば大卒学入の際には奨学金を利用するなどして、その返

済負担を親だけでなく子どもにも持たせようという考えを示した。

損保協会の竹井氏は、地震保険の概要について説明。地震発生時のメカニズムや地震保険の仕組みを解説したうえで、地震発生の際の生活再建の備えとして地震保険の加入の必要性を呼びかけた。

また、竹井氏は洪水リスクについてもふれ、日本国土の特徴は、洪水時の河川水位より低い約10%の土地に約50%の人口と約75%の資産を抱えていることだとし、「いったん大きな洪水が起きると、非常に大きな被害がでる可能性がある」と述べた。

生保文化センターの齊藤氏は、介護リスクとそとのための備えの方法について説明した。同センターがまとめた「平成24年度生命保険に関する全国実態調査」をもとに、介護期間の平均は56.5か

月(4年9か月)で、介護期間が10年以上におよぶケースは全体の12.5%にもなるという実情を示したうえで、介護リ

スクへの備えとして、社会保険などの公的保障と保険などの私的保障の両面の必要性を呼びかけた。

とに加え、地域のコミュニティの強化や子どもたちの友情の芽生えにもつながる。

昨年度は、全国47都道府県の小学校や子ども会など、過去最多となる511団体・約1万7千人の児童から2267作品が寄せられた。コンク

ルの開始から11年間では3372団体・児童約11万5千人が参加、1万6036作品となっている。

参加した子どもたちは「まことにいろいろな施設や危険な場所があることに驚いた。自分が任んでいるまちでも知らないものがたくさんあり、いろいろなことがわかってよかった」「自分のまちが好きになった」などの感想が寄せられている。

本紙で「保険営業に役立つ！ 労務と社会保険のワンポイントレッスン」を連載している梅谷幸弘氏(梅谷社会保険労務士事務所代表)が労務情報冊子「労務リスクマネジメントの手引き」を作成した。労務法と労働時間の基礎編、賃金、就業規則のテーマ別に3分冊となっており、現在、マイナンバーについてもまとめている。顧問先をはじめ企業の経営者や総務・人事担当者役立つ資料として無償で提供している。主な内容(目次)は次のとおり。

- ▽労務リスクマネジメントの手引き(労働法と労働時間の基礎編)：労働法とは？労働者と労働時間とは？変形労働時間制
- ▽同(労働法における賃金とは何か)：賃金とは？賃金に対する労働法の規制
- ▽同(就業規則とは何か)：就業規則と労働法/就業規則の法的性質と判例法理の形成/就業規則と労働契約法の現在

ほづさい探検隊は、①まちなかを探検、②マップを作成、③グループごとに発表し共有するといった取り組みやすい内容で、半日から1日で実施できる実践的な防災・安全教育プログラム。子どもへの安全教育に役立つこと



テーマは「共済と保険の違い」

# パネルディスカッション実施 秋季講座「保険論」を開催 大阪経済大・八頭司客員教授ら

大阪経済法科大学地域総合研究所客員教授・博士(経済学)の八頭司彰久氏らが、同大学八尾駅前キャンパスで8月31日～9月4日まで秋季集中講座「保険論」(リスク社会と保険)、「(大学コンソーシアム大阪提供科目)を開催した(講座15

回)。その講座のなかで、9月3日4時限目(14時40分～16時10分)に、「共済と損害保険の違いを考える」をテーマにパネルディスカッションが行われた。

まず、基調講演として服部元喜氏(共済実務担当)が代表的な共済を例に、共済事業の成り立ちや実施団体、根拠法(監督官庁)、募集形態など、保険(会社)と比較しながら、学生たちにも理解

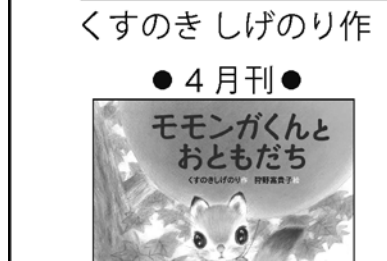
できるような共済事業についてわかりやすく話し、相互扶助の考え方を仕組むは共済も保険も同じであるとしたうえで、大きな違いとして、共済の加入対象者は原則として組合員やその家族に限られること、営利を目的とするものではないことを挙げた。

その後、八頭司氏のほか、保険代理店の株式会社ワインライフの小野力氏がパネラーとして加わ

り、同大学経済学部教授の深瀬澄彦氏(地域総合研究所長)がコーディネーターとなってパネルディスカッションに移った。八頭司氏は保険の立場から発言。「共済と保険を同じ土俵では比べられない」としつつも、保険は個人から企業まで幅広く対象としており、共済に比べ商品や補償(保障)内容が多様多様であること、さらに顧客のニーズや時代の変化に合わせ柔軟に対応していることが、

豊富な代理店が介在していることが、保険の最大の特長であると強調した。

学生からは「少子高齢化に対する保険業界の対応」「かんば生命の株式上場による影響」などについて質問があった。



『モモンガくんとおともだち』

狩野富貴子：絵  
ISBN:978-4-908255-01-4



『うれしいやくそく』

いしいつとむ：絵  
ISBN:978-4-908255-02-1



『たなからぼたもち』

澤野秋文：絵  
ISBN:978-4-908255-03-8

2015年春から毎月発行！

今、育てたい<12の心>。  
“よりよく生きる力”をはぐくむ全12巻。

# すこやかな心をはぐくむ絵本

くすのきしげのり作

● 4月刊 ●

『モモンガくんとおともだち』  
狩野富貴子：絵  
ISBN:978-4-908255-01-4

● 5月刊 ●

『うれしいやくそく』  
いしいつとむ：絵  
ISBN:978-4-908255-02-1

● 6月刊 ●

『たなからぼたもち』  
澤野秋文：絵  
ISBN:978-4-908255-03-8

私たちもおすすめします！

秋田喜代美  
(東京大学大学院教育学研究科教授  
日本保育学会会長)

泰羅雅登  
(東京医科歯科大学大学院  
認知神経生物学分野教授)

柳田邦男  
(ノンフィクション作家)

**あかつき**

●各定価  
【本体価格】 1,600円+税  
【シリーズセット価格】 19,200円+税

★お求めはお近くの書店、販売店まで

**廣済堂あかつき株式会社**  
〒176-0021 東京都練馬区貫井 4-1-11

①お問い合わせ  
資料請求は  
TEL: 03-3577-8965  
FAX: 03-3825-9187